
~ モンスターハンター ~ 狩人物語

LOUD

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「モンスターハンター」 狩人物語

【Nコード】

N6544N

【作者名】

LOUD

【あらすじ】

これは、ある村のあるハンターの物語・・・

この小説を読むに当たっての注意！

- 1、あくまでも趣味のレベル
- 2、作者は文才なし
- 3、戦闘描写が酷い
- 4、更新が遅い

それでも、読んでくれると言う心の広い方どうぞ！

設定PART1

さて本日より、モンハン小説を書くことにしたLOUDです。

ここでは、主人公と村の設定を書いていきたいと思います。

さてまずは、主人公の紹介から・・・

名前 ジン

歳 19

武器 双剣

HR 3

この小説の主人公、黒髪、黒目、髪型はレウスレイヤー

ドンドルマ《モンハンの世界の大都市》では、それなりのハンター
だったが、

ギルドからの帰還命令によって、故郷であるトレント村に帰る事になる。

性格は、いわゆる、バトルマニア戦闘狂、普段は冷静だが、戦闘で強いモンスター

に出会うと、

戦闘を楽しむようになる。

装備

武器 ブレイドエッジ他 各属性双剣

防具 ガルガシリーズ

主人公の紹介は、この位で・・・
次は、村の紹介です。

名前 トレント村

所属ハンター数 3名《ジンを含む》

村の中央に巨大な木があり、その木の不思議な力によって守られている村。

しかし、不思議な力には周期があり、弱くなると、よくモンスターの襲撃がある、それ以外は至って普通の村。

こんな物です、それでは。

次回予告

第一話「物語の始まり」

第一話 物語の始まり（前書き）

やっと書けました！それでは、どうぞ！

第一話 物語の始まり

ここはトレント村、木に囲まれ木に守られている、不思議な村。

さて、ここに近づく影が一つ、

さあ！

物語の始まりだ！

くモンスターハンターく狩人物語

第一話 「物語の始まり」

「ふう・・・やつと着いた」

ガルルガシリーズを着て、腰に双剣を差した青年が呟いた。

「久しぶりだなこの村も・・・」

この青年は、ジン。

ハンターとして故郷の村に帰って来たのである。

「さて、まずは・・・」

ジンは、辺りを見まわし、目的の建物を見つける。

「あそこだな・・・」

ジンは、その建物に向かって歩き出した。

さて、今、ジンが向かっているの場所は、「集会場」という、

簡単に説明すると、ハンターが依頼を受ける所である。

「こんにちは」

ジンは、集会場に、入って行った。

集会場は、長テーブルと、受付カウンターのためのシンプルな作りである。

受付カウンターには、受付嬢が、

長テーブルには、一人の竜人族の青年が考え事をしているのか、俯いて座っていた。

竜人族とは、人と、比べると耳が長く、人より優れた技術を持っている一族である。

その青年にジンは、声を掛けた。

「村長！」

その青年は、はっと顔を上げ声をかけた人物を見て、首を傾げた。

「えっと・・・君は誰だい？」

ジンは、思わず苦笑した、そしてヘルムを取って言った。

「久しぶりですね、村長」

村長は、ジンの顔を見て呟いた。

「ジン・・・かい？」

「そうですよ、昔いたずらしまくって皆を困らせた」

ジンは、笑みをうかべて言った。

「そうか、君だったのか新しいハンターというのは」

村長は頷きながら、言った。

「新しいハンター？」

ジンは、村長に、問いかけた。

「聞いていなかったのかい？」

「ええ、トレント村に、行けと言われただけなんで」

そう、ジンは、ただ単にトレント村に行けと言われただけである。

「そうかい、じゃあ改めて言うよ、ジン君、この村のハンターに

成ってくれるかい」

そう言って村長は、ジンに手を差し伸べた。

ジンは、一瞬ポカンとした表情を浮かべたが、すぐに笑みを作り。

「分かりました！よろしくお願いします！」

と、手を握り返した。

――

それから、少しの間ジンと村長は、話し込んでいた。

「そういえば、ロツジさんは如何したんですか？
この村のハンターは、あの人でしょう？」

ジンの言っている、ロツジとは、

ジンの幼なじみの父親で、ジンが町に出る時もハンターだった人だ。

それを聞くと、村長は、少し顔を悪くして言った。

「その事なんだが・・・実はある新種のモンスターが原因なんだ。」

「新種のモンスター？まさか、それに？」

村長は、頷く。

「そう、そのモンスターにやられてしまったんだ」

「成程、だから、俺が呼ばれたのか」

いくら木に守られていると言ってもやはり、ハンターが居ないと危険である

なので人数補給のために俺は呼ばれたのだらうとジンは思った。

しかし・・・

「実は、それだけじゃないんだ」

「へ？」

《それだけじゃない？》

ジンががそう思った時、村長だ、きりだした。

「実は、ロツジさんの子供が「私もこの村を守る！」って聞かなくてね

その子を鍛えてほしいんだ」

「子供って・・・あいつか!？」

ジンは驚くが、村長は続ける。

「そう、君の幼なじみの・・・おっと噂をすればだな」

ジンは、入口に人の気配を感じ振り返った、そこには・・・

「村長、何か依頼有りませんか？」

ハンターメールを着て、腰に片手剣を差した、少女が立っていた。

T O B E N E X T . . .

次回

「再開」

第一話 物語の始まり（後書き）

作「第一話どうでしたか？感想、指摘待ってます！」

作「さて、後書きでは没になった設定を発表していきます」

没設定1

主人公が厨二病

作「この、設定は友人が考えた物です、これはダメだろ・・・
って、事で最初に無くなった設定です」

没設定2

主人公TUEEEEE

作「これも、友人です・・・問題外で没でしたw」

作「こんな感じで後書きは書いていきます」

作「それでは、また次回！」

作「明日、試験なのに何やってんだ俺orz」

第二話 再開（前書き）

前回の第一話を修正しました

なので、修正前を見て居た場合は、少し違和感を感じられるかもしれない、

と、言ってもあまり気にしなくてもよい程度なので気になる人は、見直して下さい、掛けさせて申し訳ございません。

それでは、本編をどうぞ！

第二話 再開

ジンは、入って来た少女の容姿を見た。

メイルを付けていないので分かるが、腰付近まで伸びた銀髪、青い目、整った顔立ち

記憶違いで無ければ彼女はジンの幼なじみである。

くモンスターハンターく狩人物語

第二話

「再開」

彼女は集会場に見慣れぬ人物が居るのに気が付き、問いかけた

「あなたは誰ですか？」

ジンは、やっぱり分からないかと、苦笑いしつつ言った

「ジンだ、久しぶりだなリア」

リアと呼ばれた少女は一瞬ポカンとしていたが、すぐにジンに詰め寄った。

「な、何だ？」

ジンは思わず後ずさりする、するとリアは、

「ジン？」

と、問いかけた、それに対しジンは、

「あ、ああ」

と、返事をするしか無かった、
するとリアは・・・

「ジンーーー！」

「おわっ！」

リアは突然、ジンに飛び付いた。

「な、何すんだ！？」

ジンは狼狽し、リアを離そうとするが・・・

「えへへ」

幸せそうな笑みを浮かべて離れようとしない・・・

ジンは村長に助けを求めようと、村長に目を向けるが・・・

「青春だね」

村長も、手伝う気はない様だ。

リアは、ジンに問いかけた

「んゝついさっきだな、ハンターに成ってからだから4年振りか」

「そうだね、ジンだいぶ変ったね」

『変わったか・・・、変わっちゃいないさ何も』

ジンが物思いに老けていると。

村長が

「そう言えばジン君、レイ君は如何したんだい？」

と言った、

『レイか・・・あいつは今何してんだろうな』

レイは、ジンとリアの幼なじみで親友である、

ジンより早くハンターに成る為、村を出たのもうかれこれ5年は会って居ない。

「知りませんね、まあ、あいつは死なないでしょうし生きてりや帰って来るでしょう」

俺みたいに」

ジンの言葉には、迷いが無かった

「お、いつも一緒に、いたずらなんかしてたから、分かるのかな」

ジンは、苦笑しながら

「まあ、そんな所です」

と言った

「そういえば、リアは何でハンターに成ろうと思ったんだ？」

ジンは、リアに問いかける

「やっぱり、村の人たちを守りたかったからかな・・・
そう言うジンは？、どんな理由なの？村から出る時も「俺ハンタ
ーになる！」って出ていったし」

「俺か？俺は・・・」

ジンが喋ろうとした時、突然、集会場の扉が開いた

「た、大変だ！」

村人が血相を変えて集会場に入って来たのである。

T O B E N E X T . . .

次回予告

「襲撃」

第二話 再開（後書き）

作「さて、ようやく狩りに入れそうです
感想、意見お待ちしています！」

作「さて、恒例？の没設定の発表です！
今回は・・・」

リアの性格と容姿

作「さて本作のヒロイン、リアの性格と、容姿には他にも案がありました

その時の友人との会話を載せますどうでもいいと人は飛ばして
下さいw」

学校にて

作「ヒロインの性格や容姿が思いつかねー誰かいいアイデアない？」

友A「やっぱりツンデレだろ」

作「却下、他は？」

友B「おい！ツンデレの居ない小説は、認めないぞ！」

作「書くの俺だし趣味で描いてるからいいじゃん、他は」

友C「ヤンデレは？」

作「主人公死亡フラグwww却下ww」

友D「じゃあ、ロリは、どうだ」

作「主人公ロリコンにするつもりかw！？却下w」

友D「じゃあ、65歳以上の」ry」

作「ふざけんなwww俺の小説何処に向かうんだよwww」

作「もういい、俺が勝手に決める！」

友「聞いた意味無いじゃん、」

作「聞いた俺が間違っていたorz」

作「何だこの会話wカオスすぎるw
それでは、また次回！」

第三話 襲撃（前書き）

今回の後書きは、裏設定では有りません《何の注意だこれ？》
それでは、本編をどうぞ！

第三話 襲撃

「た、大変だ！」

村人が血相を変え集会場に入ってきた。

「モンスターハンター」狩人物語

第三話

「襲撃」

「如何したんだい？」

村長が入ってきた人物に訪ねる。

「ランポスだランポスの群れが村に！」

「何だつて!？」

ランポスとは鳥竜種に属するモンスターで、鋭い牙による噛みつきや、驚異的な脚力を活かした飛びかかりなどで初心者ハンターを苦しめ、また、群れを作って襲う事が多く、たとえ、上級ハンターでも油断できない相手である。

「ランポス？ランポス位なら結界で如何にかなるだろ？」

ジンが訪ねると、村長は暗い顔をして、

「実は今日は、結界の弱体日なんだ」

ジンの言う結界とは、この村の中央に有る巨大な木から出ているモンスターの嫌う気配の事である、しかし、この結界は年に何度か弱まる日が

有るのである、つまり運が悪い事に、その日に合わせたように、ランポスが襲撃して来たのである。

「成程・・・それでランポスの数は？」

ジンは村人に問いかける、

「あ、ああ約20体位で、ドスランポスも居たぞ」

「わかった、その位なら行けそうだな」

そう言うとジンは立ち上がり、ガルルガヘルムと道具袋を手にとった。

それを見たリアは、ジンの腕を掴んで引き止めた。

「なんだ？」

リアはジンに言った。

「私も連れて行って」

「駄目だ」

黒髪の少年「ジン」と銀髪の少女「リア」は、問いかけに応じる。

「何だレイ？」

「どうしたのレイ？」

「いや、俺達つてさあと何年位一緒にバカやれるんだろっなと思っ
てな」

「突然どうした？」

「行き成りどうしたの？」

ジンとリアはレイに問いかけた

「いや、俺とジンもうすぐ13じゃんそろそろ職業決めないと」

この世界の13歳は、もう成人である。

ハンターに成りたいのなら、修行に、

鍛冶屋に成りたければ弟子入り、

などのようにそれぞれが自分の道を歩き出すからである。

「そう言えば俺達も、13かゝ　そう言ってるお前は何をしたいんだ？」

ジンはレイに言う。

レイは

「俺？俺はもちろんハンターだ！」

胸を張りさも当然とばかりに言いきった。

「所でジンとリアは如何するんだ？」

レイの問いかけにまずジンが答える

「俺もハンターかなあ、それ以外はな・・・リアは？」

「私もハンターかなあ」

「予想できたけど、結局三人とも同じかよ」

レイは呆れたようにため息を付いた

「そう言えば突然、夢なんか聞いてきて如何したんだ」

ジンがレイに聞いた

「いや、約束しようと思ってな・・・」

「「約束？」」

ジンとリアが問う

「ああ、もしハンターに成れたらこの村を俺達で守ろうって約束をな！」

そう言ってレイは立ち上がり、拳を突き出した

「いつもお前は勝手に決めるな・・・」

「お前に聞く、ハンターとしての覚悟は有るか」

ジンは今までにない威圧感を出し、リアに問いかける
リアは頷いた

「あるよ、この村を守りたいという覚悟なら・・・」

ジンはリアの言葉を聞き静かに微笑み、

「なら、来い！」

そう、リアに言った

「うん！」

リアは頷きハンターメールを取り被った

「リアちゃん大丈夫かい？」

村長が心配そうに言うが

「大丈夫です！ジンも居るし」

「はあ、まあ行くか！」

そういつて、ジンとリアは集会場を飛び出した。

TO BE NEXT・・・

次回予告

「青き狩人」

第三話 襲撃（後書き）

作「次回こそ・・・次回こそ戦闘を！」

作「今回の後書きは、学校での会話です
気にならない人は飛ばして下さい」

学校にて

作「アイデアが無いな、何かアイデアある？」

友A「アイデアってどんな？」

作「もう一人女性キャラを出す予定なんだ、そのアイデアがな・・・」
「

友A「だったら、ツンデレにしろ！」

作「だが断（ry」

友B「何やってんだ？」

友A「あ、B 作者がもう一人の女性キャラのアイデアが欲しいんだって何かある？」

友B「ツンデレだろ！」

友A「だよな！ツンデレにしろ！」

作「ふざけんなよ！俺の小説だぞ！しかもツンデレなんて書けない」

友C「何言ってるんだ、たぶん誰に聞いても、ツンデレって言っぞ」

作「お前どっから湧いた！書けないって言うてるだろ！」

友A「なあ、なあ、作者は無視して俺達で作品作らない？」

友B「いいねそれ！俺も考える！」

友C「俺も考えるわ！」

友D「いいね」ry

友E「俺も」ry

作「（駄目だこいつら、速く何とかしないと・・・）」

作「感想待ってます！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6544n/>

～ モンスターハンター～ 狩人物語

2011年10月7日05時20分発行